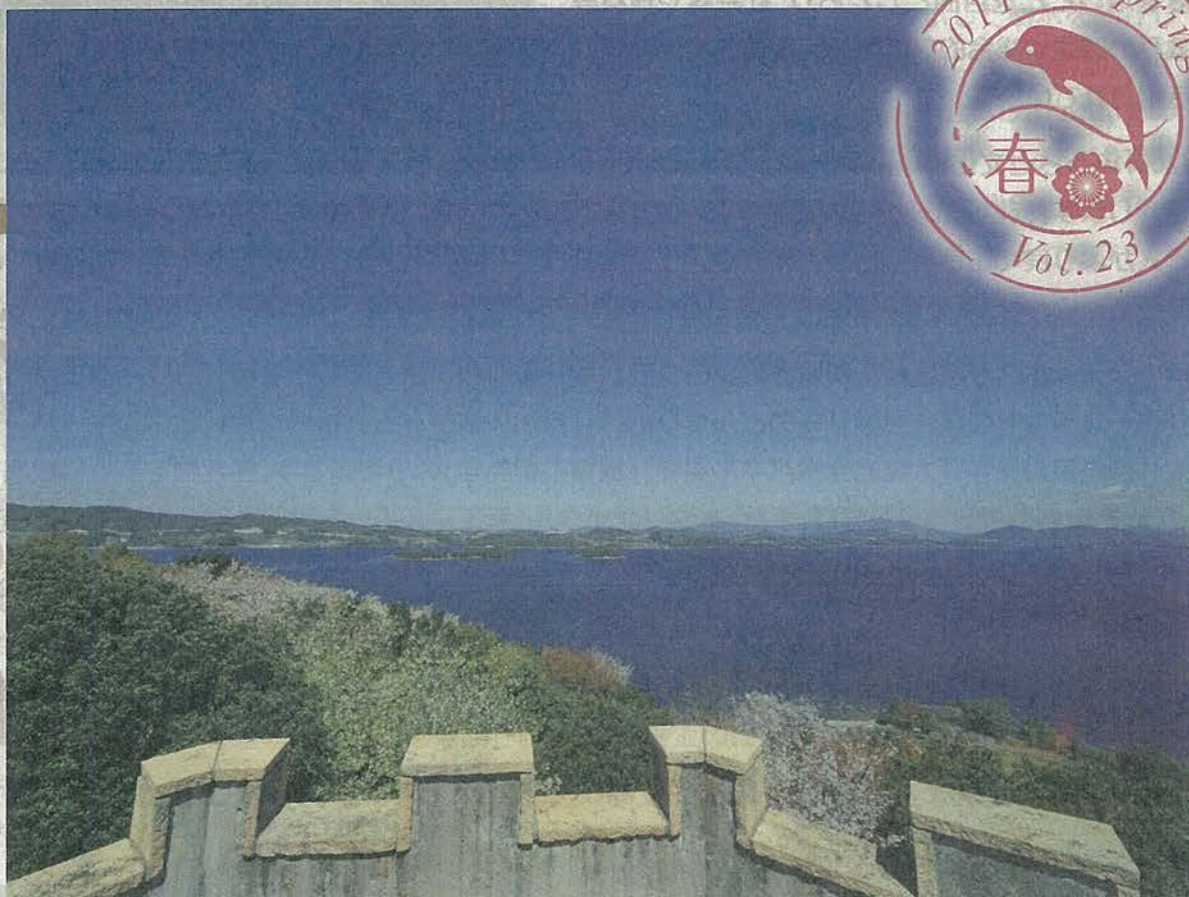


大村 かわら版



四本堂公園(西海市西彼町)から見た大村湾

CONTENTS

- | | |
|-------------------------------------|---|
| ふるさと文化・環境発見学習 | 2 |
| 大村湾の海岸をハマボウでいっぱい | 3 |
| あなたも大村湾で
マリンレジャーを楽しんでみませんか | 4 |
| アラカブの放流体験 | 5 |
| 第3回大村湾シンポジウム
～大村湾を診断する～ | 5 |
| 県の取り組み紹介「大村湾貧酸素水塊情報」 | 6 |
| 大村湾環境ネットワークに入会しませんか! | 7 |
| とってもおいしい西彼町漁協の「うず潮力キ」 | 8 |

ふるさと文化・環境発見学習

この事業は、市内50校(分校を含む)の小学校4年生を対象に平成14年度から実施しています。身近なふるさと佐世保を舞台とした体験的な活動をとおして、自然環境との共生、伝統文化への理解、産業の発展などを具体的に理解させ、郷土に対する誇りと愛情を育てるとともに、ふるさと佐世保の発展を願う態度を培うことを目的としており、社会科や理科等の教科の時間や総合的な学習の時間の充実に効果的に活用されています。



この「ふるさと文化・環境発見学習」の一環で行われているハウステンボスでの環境学習について簡単に紹介します。佐世保市を代表する観光施設の「人と自然の共生」をテーマとした取り組みを見て、自然の中で人がより良く生きることの大切さや、その手立てを具体的に学習します。施設の中にある多くの学習素材をもとに、大村湾の環境保全など身近な環境問題への感受性を養うのがねらいです。

ハウステンボスが考案した環境学習プログラムは、「運河のいきもの観察学習」「コブハクチョウ給餌体験」「ホースランドの厩舎見学」「森のどんぐり拾い」「自然体験ゲーム」「長崎次世代エネルギーパークテーマ館」「環境設備見学」「太陽光発電パネル見学」「植物工場見学」の9種類です。生き物を身近に観察することで、人と自然との関わりを学び、また、水やりサイクル、新エネルギーをはじめとした環境設備の充実など、企業として行っている環境への取り組みを知ることにより、ひとりひとりが家庭や学校でできることを考えていきます。

このような学習をとおして、近い将来、大村湾の環境保全に寄与できるような人材が育つことも期待しています。

事業終了後、学習のまとめの一部(新聞・作文等)を提出してもらい、ハウステンボスにも展示していただく予定です。

佐世保市教育委員会 学校教育課 辻 義孝



係の人から説明を受ける針尾小学校の子供たち



大村湾の海岸をハマボウで いっぱいにする

川棚自然を守る会 会長 堀江 恒之

大村湾の入口に突き出ている大崎半島には、トキワガキ、クロバイなど様々な自然の樹木が自生しており、中でも5月のクロバイの開花時期には、山全体が花で白く染まります。大崎半島を一巡している遊歩道には、エゴノキの花が垂れ下がり、沖に浮かぶ横島には、カカツガユ(クワ科ハリグワ属)が自生しています。川棚自然を守る会では、ハマボウをはじめ原生林内に自生するこれらの各樹木に名板を取付け、さらに、大型看板を東側海岸遊歩道の入口に掲示して樹木を紹介しています。ハマボウのほかに、夏の海辺を彩るブルーのハマゴウも海岸の荒地に自生しています。ただ、海岸のオニユリは、私たちの手厚い保護にも関わらずイノシシの被害で全滅しました。そのことから、イノシシの被害を受けない種として、2007年、大崎自然公園の海岸にハマボウ10本を試験的に植栽しました。活着も良く台風の被害も受けず順調に育ち、昨年7月に黄色の花をつけるようになりました。2008年と2009年にも各25本を植え、活着して花を咲かせるまでになっていましたが、昨年の台風の際に海岸線の地形が変わるような大波の直撃を受け、50本すべてが全滅してしまいました。多くの植物も繁茂していた海岸台地だったので、大丈夫と思いハマボウを植えたのですが、大自然の猛威にはかないませんでした。

—昨年播種したハマボウ50本が30~40cm程の高さに成長していますので、これまでの経験を生かして今年も植栽の適地を調査中です。

ハマボウの繁殖には、秋から冬にかけて採種して、4月中旬にプランターに播種して発芽させ管理する方法と、4月上旬に新芽を採取して挿し木する方法がありますが、どちらの方法も良く発芽・活着します。活着して10cm程に成長したところで、露地に仮植して管理し、翌年の3月頃に定植しています。

昨年の台風の大波直撃は初めての経験で、今後の管理上の貴重な経験となりました。今後、ハマボウの植栽で注意することは、台風の影響を受けない場所の選定と、砂地礫地は成長が悪いので粘土質の土壌を客土するなどの対策が必要です。

ハマボウを大村湾の海岸に植栽して、夏に人々に好奇心と元気を与えてくれる美しい黄色の花でいっぱいになりたいです。

▶ ハマボウの挿し木苗



◀ ハマボウの植栽風景



あなたも大村湾でマリンレジャーを 楽しんでみませんか

～ 大村湾ファミリークルージング 発見、大村湾 ～

▶ おおむらわん海の駅



「おおむらわん海の駅」マリーナアルパマ
(株)ヤマハマリン西九州 代表取締役社長 吉澤 健

私たちは、時津町久留里郷でマリーナを運営しています。マリーナアルパマです。アルパマは「おおむらわん海の駅」の中にあり、マリンスポーツやマリンレジャーを楽しむ方のお手伝いをさせていただいています。

「海の駅」とは、マリンスポーツやマリンレジャーに興

味のある方が、いつでも、誰でも、気軽に利用できる憩いの場として各地に登録されているレジャー拠点で、より多くの地域の方が気軽に楽しむ環境を実現するための接点の役割を担っています。また、海の駅では、ボートを使ったマリンレジャーの体験を通じて、大村湾の魅力を多くの方にお伝えしたいとの思いから活動を展開しています。四季折々の大村湾を体感いただき、新しい大村湾の魅力に出会える機会の創出の場が、この海の駅にはあります。

海での活動は、人々を元気にさせる要素がたくさんあります。より多くの方に海に目を向けていただくためには、海を眺める、海で遊ぶ、海でスポーツする、船に乗る、といった段階的な憧れに応えることができるような海辺を作っていくことが重要です。これが私たちの任務と思っています。人々が海を知り、海の活動をやってみたい、海に行ってみたいと思わせるプロモーションが必要だと考えています。海で活動することで自然との共存が芽生え、環境に対する興味が更に湧き出てくるのではないのでしょうか。

そのような思いで取り組んでいることを少しご紹介したいと思います。「おおむらわん海の駅」では、ファミリーや仲間同士で気軽に大村湾のクルージングが体感できる企画を用意しています。ボート免許取得を希望される方は、実技会場として海の駅を利用することができます。また、ボートのレンタルシステムもあり、大村湾での釣りやクルージングも楽しい遊びの一つとなっています。初めてのフィッシング教室や釣りに関する情報もお届けしています。

最近、特に人気のある講座があります。「お父さんとマリン塾」です。このマリン塾は、ボート免許は持っているが操船に自信がない方、レンタルボートを利用しようと思っているが今ひとつ行動に移れない方、釣りやルアーをやってみたくて気軽に教えてくれるところを探している方。こんなマリンレジャーに関するお悩みをお持ちの方は、一度、「おおむらわん海の駅」にご相談ください。大村湾の素晴らしさがきっと発見できます。スタッフは、大村湾の魅力を一人でも多くの方に伝えたいと日々活動していますので、乗船体験やマリン塾など海の情報について、お気軽にお問い合わせください。一緒に大村湾のマリンレジャーを楽しんでみませんか。



▲お父さんとマリン塾、
楽しいキス釣り挑戦



▲マリン塾 釣り仕掛け講習

アラカブの放流体験

西海東小学校5年生担任 山口 久美子 山脇亨

西海市立西海東小学校の校区は、佐世保湾に面しています。子ども達も日頃から海に親しんでおり、魚釣りに行ったという話もよく耳にします。

西海東小では、5年生の総合的な学習の時間に、身近な体験を通じて環境問題に目を向ける取り組みを行っています。その学習の一環として、昨年4月に瀬川漁業協同組合の方々の指導のもと、アラカブの稚魚の放流体験をさせていただきました。稚魚の大きさは親指程度ですが、その小さい体に成魚と同じような模様がしっかりと付いていました。水浦の沖合まで船で行き、四つのグループに分かれ約1万匹の稚魚を放流しました。

子どもたちの感想文を読むと、「稚魚を育てる過程を知りたい」「どうして放流しなくてはいけないのか」といった疑問がいくつも湧いてきていました。普段見慣れている海でも、自分たちが知らないことが多くあり、もっと調べてみたいという意欲が出てきていました。また、稚魚の放流という活動は、子どもの心に自然への親しみを育ててくれました。今年度も放流体験を計画していますが、西海橋をはさんで反対側に広がっている大村湾にも目を向けてみようと考えています。



子どもたちの川柳

- ・アラカブを放流して大きくなれ
- ・アラカブの子どもをかえす さようなら
- ・あの稚魚はりっぱな魚になるように
- ・アラカブの稚魚はとつてもかわいいな
- ・これからも元気にそだつとうれしいな
- ・アラカブの稚魚の放流 楽しいよ
- ・アラカブを放流したよ 五年生四十二人
- ・アラカブの放流では楽しかった
- ・船のり 稚魚放したよアラカブを
- ・アラカブの放流したよ 楽しいな
- ・アラカブの稚魚の放流 楽しいな
- ・アラカブの稚魚を沖まで 運んだよ
- ・船に乗り 稚魚の放流 楽しいな
- ・アラカブが海の中へと 旅立った
- ・アラカブを放流したよ 楽しいな
- ・アラカブの 子どもを海へ もどしたよ
- ・アラカブは海で泳いだ 楽しそう
- ・アラカブを放流したよ 元気でね
- ・アラカブつてどんな魚の 種類かな
- ・アラカブを海に流して さようなら

第3回大村湾シンポジウム

～大村湾を診断する～

去る2月26日、地域の方々をはじめ多方面の皆様のご参加のもと、大村市郡地区公民館において、大村湾の自然(力)再生・湾沿岸地域の活性化を目的とした「第3回大村湾シンポジウム」を開催しました。このシンポジウムでは、「海の健康診断から処方箋へ」と題した長崎大学の中田教授による基調講演や、「元気な大村湾」を目指して」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、パネリストから大村湾の現状や問題点、他の海域の事例などが紹介されたほか、会場からは環境教育の必要性や、一刻も早い対策が必要などの意見が出され、活発な意見交換が行われました。

今後は、「海の健康診断」処方箋を活用しながら、大村湾をより良い形で次世代に伝えていきたいと考えています。

「海の健康診断」とは、

生き物の種類や生息環境がどのような状態なのか、川から流れ込む栄養がどう消費され残っているのか、漁獲量がどう変化しているのか、などに着目して総合的に沿岸海域を環境診断・評価する手法で、これにより環境修復の目標を客観的に具体化するものです。



▲長崎大学 中田教授による基調講演



▲パネルディスカッション

大村湾貧酸素水塊情報

貧酸素水塊(ひんさんすいかい)の発生メカニズムについてはスナメリかわら版の20号で紹介していますが、記事の一部を再掲してみます。

＜貧酸素水塊とは、魚介類が生存できないくらいに酸素濃度が低下した水の塊のことを言います。夏になると海面付近で温められた海水が海底付近の冷たい海水よりも軽くなり、冷たい底層水の上に温かい表層水が積み重なった状態になるため、大気中の酸素を取り込んだ表層水が海底に降りていけなくなることで、海底の海水に酸素が供給されなくなります。さらに、海底に堆積したプランクトンの死骸などがバクテリアの働きで分解されるときに酸素が消費されることで、貧酸素水塊(海底の酸欠状態)が発生します。また、貧酸素水塊には海底から溶け出した有毒な硫化水素が含まれており、風などによって移動し表層近くまで上昇すると、海面近くの海水に含まれている酸素と反応し酸化硫黄が出来ます。海面が鮮やかなエメラルドグリーンになるのはこのためで、青潮と呼ばれています。＞

平成21年度から取り組んでいる「大村湾貧酸素水塊情報」の試験運用を開始しました。情報内容は、海底から1m上の観測日の溶存酸素濃度と水温の分布状況です。ホームページでも公開していますので、下記のアドレスで検索してみてください。

<http://omurawan.ddo.jp/hypoxia/tdo/index.html>

検索

長崎県 環境部 環境政策課

大村湾貧酸素水塊情報

長崎県

最新の結果

これまでの結果

白黒印刷用はこちら

平成21年度のデータ

下記よりダウンロードできます。データの活用は自由ですが、ご使用料に追加料までご一考下さい。

過去観測データ

過去観測データ

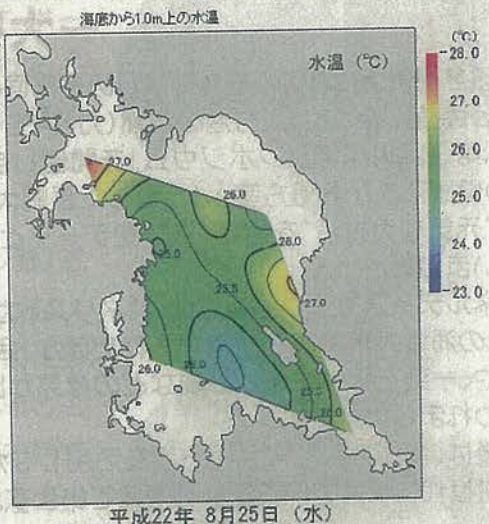
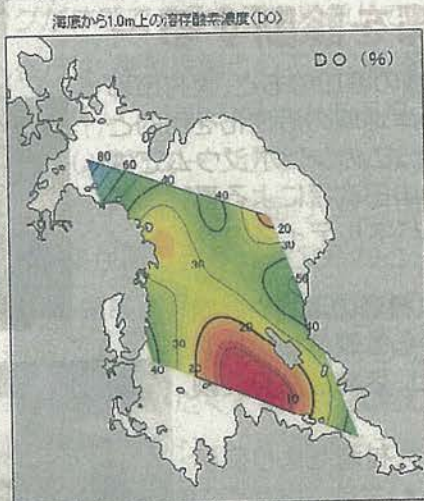
平成21年度観測地点図

貧酸素水塊情報

下記QRコードをバーコードリーダー機能付きの携帯電話で読み取りホームページへアクセスして下さい。
 詳細でない場合はこちらをご覧ください。
<http://omurawan.ddo.jp/hypoxia/tdo/index.html>



発生状況(確定値) 大村湾全域の底層(川棚町大崎と西海市宮浦を結んだ線より北西域を除く)
 8月25日観測の結果、海中の溶存酸素(DO)が40%以下の貧酸素水塊が、湾全体の底層で確認されています。特に湾の南部及び西部では酸素濃度が低い水が確認されました。
 強い風が数日間続いて(同方向に吹き続ける時などは)、貧酸素水塊が移動、換層するおそれがありますので、蓄積している漁獲物等の管理に十分ご注意ください。



【ホームページに関するお問い合わせ先】
 長崎県 環境部 環境政策課
 〒850-8570 長崎市江戸町2番13号(旧日本生命ビル4階)
 TEL:095-895-2355 FAX:095-895-2956 E-mail:z09010@pref.nagasaki.lg.jp
 Copyright (C) 2010 長崎県環境部環境政策課 All rights reserved

現在掲載しているものは昨年の8～9月の観測結果ですが、今年も貧酸素水塊が発生する夏場に情報を更新していくことにしています。左の溶存酸素濃度の分布図は、濃度が低くなるに従って青→緑→黄→赤で示しています。湾の入り口付近は青色(60%以上)ですが、その他の海域はすべて60%以下になっている状況がわかりだと思えます。どのような影響があるかの目安としては、40%以下の場所は魚介類にとって危険な水域で、さらに10%以下になると酸素がほとんどない状態で青潮になる可能性があります。

大村湾の貧酸素水塊は梅雨明け頃から発生し始め、秋頃に消滅するというサイクルで毎年発生している状況で、また、風などによって移動しやすいという性質を持っています。「貧酸素水塊情報」は、漁業への影響を極力避けるための情報として漁師の皆さんに有効に用されていますので、今後も、より精度の高い情報を提供していくことにしています。

近年進行している大村湾の富栄養化(=水質悪化)を改善するため、県をはじめ流域の市・町、大学、地域の団体などで様々な取り組みを行っていますが、富栄養化の原因である有機物を餌として育つ魚介類を積極的に食べることも大きな効果があります。大村湾はナマコ、シャコ、イイダコ、もずく、カキなどの魚介類の宝庫です。私は魚好きでよく食べていますが、とてもおいしいです。皆さんも漁協の直売所や市場などで大村湾の海産物を見かけたら、買って食べてみてください。(編集)

大村湾環境ネットワークに入会しませんか!

1. 「大村湾環境ネットワーク」とは、

大村湾が大好きな人、大村湾のために活動している人などが、いろいろな情報を交換したり、一緒に活動したりするための「場」として設置しているものです。

2. 入会資格

だれでも入会できます。個人・団体を問いません。

3. 会費

無料です。

4. 入会すると

- (1) インターネットや情報チラシなどで、大村湾に関する情報や、他の団体などの活動の情報を入手することができます。
- (2) 事務局に活動内容などを投稿することにより、ネットワーク会員の皆さんに情報を発信することができます。
- (3) 情報交換会などで、多くの人と知り合うことができます。
- (4) 大村湾のいろいろな問題に関する勉強会や研究会に参加することができます。

◎お問合せ先◎ 長崎市江戸町2-13 長崎県庁 環境政策課 大村湾環境ネットワーク事務局
電話 095-895-2355 FAX095-895-2566

※入会をご希望の方は、申込書を送付しますのでご連絡ください。

※大村湾ネットワークホームページにも入会申込書を掲載しています。

(<http://www.pref.nagasaki.jp/kankyo/oomura/sub1.html>)



とってもおいしい西彼町漁協の「うず潮カキ」

西海市水産課 玉本 泰之

みなさん「うず潮カキ」を覚えてください

西海市の西彼町漁協では、漁協に水揚げされるカキを「うず潮カキ」としてブランド化に取り組んでいます。「うず潮カキ」は大村湾産特有の甘みがあり、殺菌海水で一晩処理をすることで高い安全性を保っているのが特徴です。9月に選別を行い、カゴで一粒ずつ丁寧に養殖する方法のため泥臭さありません。

この「うず潮カキ」をみなさんに知ってもらい、たくさん買ってもらうため、長崎出島ワーフで毎週土日(12月~2月)、旧オランダ村で毎月1回(12月~3月)カキ焼きと即売会を開催しました。また、漁協直売所においても4月まで「うず潮カキ」を販売しています。「うず潮カキ」ののぼりを見つけたら、ぜひお立ち寄りください。

カキは女性を美しくする

カキは「海のミルク」と呼ばれ、様々な栄養素を含む最高の美容・健康食品です。グリコゲン、血中コレステロールを下げるタウリンなど18種類のアミノ酸とミネラル、ビタミンがたくさん含まれています。まさに完全食品といわれるゆえんで、特に亜鉛の含有量はトップクラスの食品です。亜鉛は味覚障害、疲れ目、肝臓病、女性に多い鉄欠乏性貧血の予防などに効果を発揮するほか、新陳代謝を活発にするので、肌の若返り、痛んだ髪のカケアにも効果があることに加えて、女性ホルモンの分泌を促すという働きもあります。

なお、亜鉛はビタミンCと一緒に摂ると効率的に吸収されますので、カキにはレモンをかけて食べることをお勧めします。「うず潮カキ」はこれから4月にかけて栄養を体の中に蓄えますので、風味もよく味も濃厚になってきます。このすばらしい美容・健康食品である「うず潮カキ」をたくさん食べてきれいになってください。



身がたっぷり詰まった「うず潮カキ」



「うず潮カキ」の即売会とカキ焼き

ズナメリがわら版

大村湾周辺にお住まいの
皆様の情報誌です。

ズナメリ がわら版

平成23年3月発行
編集・発行/長崎県環境政策課
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
TEL 095-895-2355
FAX 095-895-2566



大村湾に関する環境情報を提供してください。

- 長崎県環境政策課 ◎電話 095-895-2355 ◎FAX 095-895-2566
◎E-mail omurawan@pref.nagasaki.lg.jp
- 長崎市環境保全課 ◎電話 095-829-1156 ◎FAX 095-820-0316
- 佐世保市環境保全課 ◎電話 0956-26-1787 ◎FAX 0956-34-4477
- 諫早市環境保全課 ◎電話 0957-22-2570 ◎FAX 0957-22-2579
- 大村市環境保全課 ◎電話 0957-53-4111 ◎FAX 0957-54-0404
- 西海市環境政策課 ◎電話 0959-37-0011 ◎FAX 0959-23-3101
- 長与町環境対策課 ◎電話 095-883-1111 ◎FAX 095-883-2061
- 時津町住民環境課 ◎電話 095-882-2211 ◎FAX 095-881-2764
- 東彼杵町町民生活課 ◎電話 0957-46-1111 ◎FAX 0957-46-0884
- 川棚町住民福祉課 ◎電話 0956-82-3131 ◎FAX 0956-82-3134
- 波佐見町住民福祉課 ◎電話 0956-85-2111 ◎FAX 0956-85-8161